

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372400988		
法人名	医療法人 安田会		
事業所名	グループホーム るしだ		
所在地	熊本県 玉名市 横島町横島3399番地1		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年3月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

前年度から大きく力を入れているのは、ICT化。業務後の記録の多さによる職員への負担が長年の課題となっていたが、この度、母体施設と共同で新しい介護ソフトを導入し、記録による負担の改善を行っている。これにより記録はパソコンへの入力を中心に、Wi-Fi環境も取り入れたので、介護の現場で直接ノートパソコンに記録できる。今年はIpadを購入し、ホーム内を移動しながらバイタル等を素早く入力できるシステム作りを行う予定である。人員体制の面では、パート職員を2名から3名に増やすことにより、日中の配置を厚くした。これにより、入浴等のサービスが以前よりスムーズに運ぶようになった。徘徊等への対応も、人数の少ない時間帯でも、職員同士の声かけ等長年培ったチームワークにより事故を未然に防いでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設時から変わらぬホーム長や管理者というあまり変動もない職員体制の中で、76歳から99歳まで幅広い年齢層の入居者支援に向けパート職の増員等手厚くするとともに、ICT化の稼働により職員の負担軽減に努めている。入居者は掃除や洗濯物干し等に勤しみ、高齢期にあっても気遣いの心を持ち続け方等笑顔ある生活はグループホームの本来の家庭的なぬくもりのある生活ぶりであり、職員の個別ケアや活動の充実を目標としたチームケアの成果である。協力医療機関や隣接福祉施設等のスケールメリットは健康管理とともに、委員会活動等職員の質の向上、家族の安心感へと反映させている。散歩に出かけては炬燵でお茶をもらう等ホームの存在は地域に浸透しており、生活基盤が確立し、入居同士の仲睦まじさや、ありがとうと職員に向けた労いの言葉に、職員のケア力が活かされている。運営推進会議の議事録から透明性のある運営体制であることも確認され、今後もこの会議を活かしながら認知症ケア推進に寄与されるであろうと大いに期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	28, 29年度で3名の新しい職員が仲間に加わったが、チームワークを活かし、先輩職員の育成により、これまで培ってきた方向性をスムーズに共有することができている。	“敬愛”と“ぬくもり”を大前提に、敬愛し家族のように接する心くばりや、我が家のように暮らせる環境作りと、地域密着型ホームとして地域とのふれあいを大切に…、新たに理念を見直している。また、目標を掲げ、方向性を統一している。また、“るしだ通信”等による地域への啓発が行き届き、恒例した夏まつりには多くの住民の参加を得て盛会に開催されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりは毎年地域住民が約500名参加する地域でも恒例行事として浸透している。認知症サポーター養成講座による小学校への訪問、中学生の職場体験の受入等も行っている。	ホームは地域住民が立ち寄ることができる環境にあり、住民から寄せられた折り紙の箱は手指の訓練に利用され、観音参りや神社参拝等地域の人が集う場所へ出かけ交流している。近く美容室やスーパーでの買い物等に出かけたり、認知症サポーターの見学や中学生の職場体験等を受け入れている。散歩時、近隣のお宅に上がり炬燵でお茶を呼ばれる等ホームの存在が地域に根付いている、	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知己のキャラバンメイト連絡会に参加し、事業所の見学会や地域マップ作り等の活動を行っており、地域の高齢者に様々な社会資源の情報提供ができるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しい出席者が増えたので、会議を通してグループホームの制度や特徴等を理解してもらい、外部からのチェック機能としての役割をお願いできるよう取り組んでいる。	定例化した運営推進会議は、老人会会長や民生委員、認知症サポーター、家族、行政と地域包括支援センターとともに福祉体験中の中学生や入居者も参加されている。介護報酬改定の説明や、事例を通じ身体拘束の対策等を説明し、年に1回は家族会と組み合わせて開催している。入居者の様子を見ながら進行されており、認知症ケア啓発の一環としての枠割も担っているが、意見等はあまり出されていない。	運営推進会議は回を重ねると形骸化しかねない。課題を持って開催されており、活性化に向け事前に課題を提示すること等検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい、その都度ホームの取組や課題を伝えている。会議は入居者の生活の場であるリビングホールで行っているため、事業所の日常の風景も見てもらえる。	運営推進会議への参加時に2ヶ月間の情報や課題を発信している。行政とは介護保険の更新申請代行等必要最低限の関わりがあるが、地域包括支援センターからの入居相談等に対応している。時節に応じ感染症対策等の情報も寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年、徘徊対策として、玄関にセンサーチャイムを設置し、職員の配置が少ない時間帯でも、入居者の玄関からの飛び出しに気づくように対応した、	身体拘束廃止方針を掲げたホームでは、勉強会やチェックリストをもとに調査している。帰宅願望や外出傾向、外出したい思いに、所在確認や見守りを徹底し、状況によっては一緒に何かに取り組んでもらう体制としている。玄関を開錠し、広い環境の中で入居者は自由に行き来できている。徘徊の危険性に、玄関にセンサーチャイムを設置、運営推進会議の中でも議題に挙げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体施設で毎月行う全体会議の中で、高齢者虐待に対する勉強会を定期的に行っており、職員は年に数回虐待に関する知識の自己評価をチェック方式で記入する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	顧問弁護士が毎月訪問するが、その際、権利擁護が必要な人がいないか、確認している。必要な場合は、勉強会も含めて対応してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	過去の経験による注意点や解約や医療機関との連携、ターミナルケアについて等時間をかけて説明する。報酬改定の際は、重要事項説明書の変更を分かりやすく行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた家族には、職員が気さくにコミュニケーションをとり、気軽に要望が出しやすいように心がけている。運営推進会議でも、家族代表を2名に増員している。	毎月利用料支払いが家族の訪問のきっかけとして意見や要望を聞き取りしている。家族会も開催されており、介護保険改正の説明や職員との話し合いの場が作られている。また、運営推進会議も問題提起の場として生かされている。玄関に意見箱を設置しているが、更に家族向け満足度調査も行いたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の定例会議では、少人数で円卓を囲む形で行われるため、全員の距離が近く、全職員の活発な意見が出やすい雰囲気がある。また、母体施設の会議にも出席するので、提案、要望があればそこで出すこともできる。	問題発生時等必要時に全員で話し合う等ホーム長を中心に職員同士の意思疎通の良い関係が築かれており、業務の流れの見直しや目標を掲げベクトルを同じくしてケアに努めている。ホームの問題点等母体での全体会議の中で話し合いが行われている。また、母体での夏祭りもホーム職員も分担して企画・参画している。また、記録の負担軽減にICT化が稼働している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行う評価票により、自己評価と上司の評価が賞与に反映する。また、10年勤務した者は表彰と金一封を支給する等、職員の努力を評価する取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部コンサルタントによる研修、施設内の勉強会、GH連絡会による意見交換等、サービスの質の向上の取組を常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている	GH連絡会により、年1回、入居者同士の交流会を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や情報収集を行い、関係作りが行いやすくなるよう努めている。可能な限り本人、家族の事前訪問、お試し利用を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、面会の際に家族の要望やホームでの暮らしぶりについて情報交換ができるように、会話しやすい雰囲気づくりを常に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の段階と本人の喫煙や飲酒の嗜好等を調査し、入居後も継続して楽しめるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、本人の残存機能に応じた野菜切り、洗濯物干し等を共に行い、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の事情によって面会の数、親密度も変わるので、それぞれの状況を把握し無理のない範囲での支援をお願いしている。遠方の家族には、LINEで情報を伝えるケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	買い物に行くと知人と会うことが多いので、会話の時間を大切に、ホームにも会いに来てもらうようお願いしたり、関係が続くよう支援している。	家族や知人の訪問、かかりつけ医の継続や以前からホームに来ておられた方の入居（ホームの隣の方）、近く美容師利用や自宅近くの神社への初もうで等馴染みの関係が途切れないう支援している。我が家で正月を迎えた入居者や、家族も一緒に奥の院へ出かける等家族の協力も受けている。入居者同士も馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルメイト(食事・作業・TV鑑賞)での活動を工夫している。入浴や買い物、バスハイクの席も気の合う人と一緒になるよう配慮している。居室で長時間過ごしている方にも、定期的に声をかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設年に入居した方の家族が、昨年契約した入居者の家族として、またお付き合いが始まった。当ホームの支援を信頼し、再び選んで頂いたと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や表情等に変化がある時には家族に相談したり、落ち着きがなかったり混乱している場合は、散歩や買い物で気分転換を図る等個々に対応している。	職員は外出時の様子等全員で検討する等常に気づきを持ってケアに当たっている。認知症の進行という中で、意思疎通困難な状況もみられるが、コミュニケーションの取り方では意思の確認はできるとして、選択する場面を作ったり、個々のペースに合わせながら支援している。言葉が出ない時には本人の言いたそうな言葉を投げかける等プランにも入れながら、思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や面会時の話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調にあわせ臥床時間や起床時間を決め、可能な範囲で生活リハビリができるよう促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やリーダー板より、他職員の情報を取り入れ、本人、家族、必要時には主治医も交え話し合いの場を持ち、意見を取り入れるよう努めている。	介護計画担当者は日ごろから職員と話し合い、本人の思いや担当職員による家族の意向等情報を収集している。遠方の家族の帰省に合わせたプランの見直しや、定期見直し(介護保険更新に合わせている)、退院時等新たなプランを作成している職員のケア統一として、詳細かつ具体的な援助内容個別的なプランは3ヶ月で評価するとともに、家族の思いの変化随時追加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の簡素化ができるよう、チェック式の書式に移行中。記録、チェック表、リーダー板を活用しながら情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のその時の状態に応じて、個別に小旅行を企画したり、ホーム内でも塗り絵等のレクリエーションを行ったり、毎年の決まり事にはせず、柔軟に企画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理容室の協力の下、お店で散髪を行ったり、正月はバスハイクで、近隣の神社で初詣を行う等地域資源とのつながりが続くよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関係にない医療機関でも、家族の協力や往診を受けながら医療を受けることができている。	もともと、母体がかかりつけ医とされていた方が殆どであり、定期受診を支援しており、本人・家族の安心となっている。また、希望するかかりつけ医に、家族やホーム職員による受診も支援されている。健康状態や受診結果は日頃から共有を図っており、必要に応じて往診も行われている。	看護職員を中心にした日々の健康管理や、併設施設の看護師との連携が図られている。家族へも普段の健康支援について伝えることで安心に繋がりが、家族からの相談なども行いやすいものと思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が日中数回訪問し、入居者の健康管理や職員からの相談に対応している。緊急時には他の看護師もいるので、連絡すれば迅速に応援に来てもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時に情報交換を行っている。入院中にも経過状況の確認を行い、病院側、家族との調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、本人や家族、看護師、主治医と話し合いながら、安心して過ごせるように支援している。	重度化・終末期支援への方針を家族へ説明している。車いす利用者をはじめ、現在の健康状態に心配なく過ごされているが、高齢の入居者や遠方の家族には、早めに意向や緊急時の対応について確認している。ターミナルについては、主治医との連携や職員への理解と連携等その都度話し合いを重ね、不安なく本人・家族にとって最良の支援ができるようにしている。	これまで長寿祝いを外出を兼ねてされていた方が、本人の負担なども考慮しホームのホールに20人ほど集われ祝会がもたれる等、できる限りの支援で入居者と家族との喜びの時間をサポートしている。今後も日頃の関わりを大切にしたい支援の継続や、関わる職員のメンタル面への配慮にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているので、AEDを使った蘇生法等の応急手当訓練を定期的に行っている、運営推進会議でも紹介しているので、必要時には地域住民に貸し出すことも想定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年母体施設で、県が行っているシェイクアウト訓練に実験的に参加した。短時間で有効的な地震訓練ができたので、今年度“るしだ”でも実施を予定している。	昼・夜を想定した避難訓練が行われている。また、運営推進会議メンバーも訓練への参加協力が見られ、元消防隊長により適切なアドバイスや指導を受けるなど心強い存在である。災害時の備蓄は、最低限必要な米・水・缶詰などを確保し、地震対応訓練は今後の課題としている。	ウッドデッキは避難口になることも予想され、使用されていないブランターや鉢などは片付ける方向性で検討いただきたい。また、新年度は、家族に便り等を活用しながら防災訓練への呼びかけを検討いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴で自己主張の強い方の対応に困惑する場面があるため、勉強会やミーティングで尊重した対応が出来るよう努めている。	尊厳とぬくもりを柱とし、尊厳をもって家族のように接する心配りを掲げている。ホーム長や管理者は、個々に応じた支援を努めることを指導し、会議の中で共有を図っている。言葉使いについては、方言を交えたほうがわかりやすいが、失礼にならないよう心掛け、呼称は苗字や反応が良い下の名など個別で対応している。起床や食事その方の状態で支援しており、遅めの起床でゆっくり朝食をとられる方もおられる。個人情報の使用については、本人・家族の承諾を得ており、職員へも守秘義務の徹底が行われている。	面会簿の記入については、個別管理等検討いただき、注意事項など掲示物の文言については、十分な配慮が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り7、個人で選択できる場面をもち、意見が取り組めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や作業の時間も本人がその気にならないなら、無理に勧めずに本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の時、本人の希望が伝わるよう支援したり、服装も季節感がずれている方には、適切なみだしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせて、おはぎ、いなり寿司、いきなり団子等を作っている。料理が難しい方でも、準備や後片付け等できることに参加してもらっている。	入居者の希望や旬の食材を活かしたものを取り入れた献立として、入居者と一緒に食材購入に出かけている。入居者も、もやしの根切りなどの下ごしらえや下膳、おやつ作り(団子やたこ焼き・ケーキなど)と一緒に楽しんでいる。職員も同じものを一緒に摂ることで、思いを共有し、献立や味付けなどに反映させている。	入居者に楽しく・美味しい食事を提供できるよう、料理の勉強会も検討したいとしている。エプロンについては、首に負担のない使用方法を検討いただきたい、また、テーブルが高く食べづらいような方もおられ、椅子にクッションを置くなど個別に検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿や服薬とのバランスを考えた水分量の管理を徹底している。料理も、気持ちよく食べて頂けるよう、色どり等を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用しながら、個々のパターンを把握し対応している。	職員は排泄パターンを共有し、個別支援に努めている。基本的に起床時や食事前など個々のタイミングに合わせて声掛け・誘導を行い、尿取りや昼・夜の排泄用品の使い分けを工夫している。自立の方については、継続できるよう見守りや排泄後の確認を行っている。排泄用品は家族が中心に準備されており、大きさや吸収性など適切なものをアドバイスしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ご飯、プルーン、好みの飲料水等や体操のような運動の習慣をつけることで、薬に頼らないは排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、拒否も多いため、本人の希望を聞いて柔軟に対応している。	本人の毎日入りたいなど希望に対応しながら、週2回入ってもらえるようにしている。拒否の方や身体状況に応じて、清拭を取り入れながら清潔保持に努めている。シャンプーなどはホームでも準備しているが、好みのものを揃えておられる方もおられる。入浴剤の使用や継続している菖蒲・柚子を使った季節湯は全員が楽しめるよう、2～3日実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVを見たい方、早く休みたい方等個人の生活パターンに応じたり、または希望時に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の職員がホームに薬を届けに来るので、業務中でも薬の説明を丁寧にもらえる。内服の変更があれば、薬効、副作用を知り、口頭又は申し送りを通じ、職員間で確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状態に合わせ、買物、外出支援、園庭の散歩、体操等日々日課となるような取組を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物や気分転換のドライブが主な外出支援となっている。家族の協力を得て、家族の行事やご主人の面会、外出に出かける方もおられる。	季節や天候の良い日は近隣や中庭の散歩をはじめ、神社参拝や理容店など地域への外出を支援している。今年の正月は3か所の神社での初詣を計画し、自宅近くなど全員が参拝されており、一緒に同行された家族もおられる。外食や家族の行事、正月の日帰り帰省など家族の協力により外出も行われている。	入居者にとって家族の協力による外出は、楽しみと思われる。今後も、ホーム便りを活用し外出を含む日中の様子を紹介しながら、計画している外出に家族の参加・協力を呼び掛けるなどの取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトが訪問するので、自分で購入してもらっている。買い物でも職員が同行するが、お菓子を自分で購入される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の方には、個別に着信対応の支援も行っている。年賀状作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当法人の職員は制服の着用が原則となるが、るしたの場合は、家庭的な雰囲気を重視するために私服とエプロンの着用で統一している。外観、インテリア等もなるべく家庭的に感じてもらうようにしている。	玄関先の寄せ植え鉢や観葉植物が置かれ、明るく高い天井やホールを中心に左右に居室を配置するなどゆとりある空間である。職員の見守りの中行われるラジオ体操、炭坑節を歌いながらの踊り、時間をずらした食事など、共用空間では自由に過ごされている。また、日向ぼっこや、窓越しで横になり休憩されるなど、穏やかな時間を過ごされている。外壁の塗り替えが済んだばかりであり、共有空間の見直しの必要性は認識されており、業務のやり方を見直したいとしている。	入居者の作品や外出・写真等の掲示物に、傷みや色落ちなどが見られる。掲示物は、本人の励みや家族など来訪者の楽しみとなるよう、近況の物が望ましいと思われる。今後は、飾り物等作り替えも含め、共用空間の定期的な見直しを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングの各所にイスやベンチが設置されており、家族が面会にきたり、テレビを見たりと用途に分けて離れて過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に本人の馴染みのあるものを持ちこんでほしい旨を伝えている。氷川きよしが大好きな方には、壁にポスターを貼って喜んでもらっている。	入居契約時居室にはクロゼットと中に収納ケースを備えていることとともに、馴染みあるものの必要性を説明している。家具など大きな品の持ち込みは少なく、透明の収納ケースの持ち込みが多くなっているようである。職員は整頓や衣類の損傷など確認し、衣替えを含め、不足の品についてはその都度家族へ報告している。テレビや家族の写真、ぬいぐるみ、加湿器など本人にとって安心できるものや必要な物が持ち込まれている。換気や室温管理に努め、冷え性の方には安全面に配慮し60度の湯温を入れたペットボトルの湯たんぽを準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な方には、毎朝なるべく自分の部屋の掃除をしてもらう等、生活が活気づくような行動を促している。		